

中期計画(中間案)パブリックコメント等に対する京都府の考え方

区分	ご意見・ご提案(要旨)	京都府の考え方	
府民安心の再構築	子育て・子育て	<p>出産を不安がる晩産世代に出生年齢の実際の統計を示せば勇気づけられると思う。</p> <p>府民は不安の中で暮らしているので、子育てや医療福祉の事業が本当に成果の上がるものとしてほしい。</p> <p>今後は雇用の安定と経済復興のために、保育所・幼稚園・老人保健施設などを増やしてほしい。</p> <p>子育て中の親がストレスを発散させるために、子どもを連れていっしょに運動ができる場所を設けてほしい。</p> <p>安心して子育てができるように、親子で集えるサークルなどの場所をたくさんつくってほしい。</p> <p>子育てについての話し合いがしたい。</p> <p>子どもが外で安全に遊べ、親の育児ストレスが解消される施設ができてほしい。</p> <p>子どもを伸び伸びと遊ばせられる場所や、雨の時でも遊べる室内の遊び場、赤ちゃんのためのスペースやルームなどがたくさんほしい。</p> <p>子どもが遊べるスポットが他府県に較べて少ない。育児面でのサポート向上を希望する。</p> <p>京都のまちの体験施設や道の駅のようなものがあり、子どもが遊べるアミューズメント施設がほしい。</p> <p>子育てしながら働ける環境づくり、安全に学校に通えるサポートなど、安心して子育てできる環境を実現してほしい。</p> <p>少年犯罪に対して、府民全員の問題として試行錯誤しながら対策を行ってほしい。</p> <p>児童虐待のない京都府にするために、各府警に児童相談所を設置してはどうか。</p>	
	学び	<p>子どもたちに自分で考える力を養ってほしい。</p> <p>父兄と学校の共同や、年長者の知恵と若い先生の知識を組み合わせ、子どもたちが考える力をしっかりと身に付けるようにすべきである。</p> <p>日本人らしさに目覚めさせる教育を取り入れるべき。</p> <p>学校教育の一環として子どもたちに宗教教育をとり入れ、魂の教育の話をしてほしい。</p> <p>空き家を生涯学習や多文化共生の拠点として活用し、地域の高齢者が講師になって子どもや外国人、留学生などを教える「空き家塾」を提案する。</p>	
			<p>安心して子どもを産み、育てられる社会をめざしていきたいと考えています。</p> <p>そのため、中期計画では、地域の絆の希薄化などにより、子育ての孤立化・孤独化が進む中で、子育てのストレスを小さくするために、子育て中の親同士が子どもといっしょに集い、交流できる場づくりなどを促進するとともに、子育て家庭のニーズに応じた多様で柔軟な保育環境の整備を促進していくこととしています。</p> <p>また、子どもの遊び場については、できるだけ屋外でのびのびと遊べるように、子どもが生きものを観察し、自然とふれ合うことのできるビオトープのある空間づくりなどを進めていきたいと思っています。さらに、少年非行・犯罪の防止対策や、いじめや児童虐待など、子どもの人権侵害の状況改善にも積極的に取り組んでいくこととしています。</p> <p>生涯を通じて、一人ひとりの個性と能力を伸ばす教育機会が確保された社会をめざしていきたいと考えています。</p> <p>そのため、中期計画では、少人数教育の拡充や地域全体で子どもを育む環境づくりなどを進め、基礎的な学力とともに考える力や公共精神、規範意識を育む教育を進めていくとともに、地域社会の中で誰もが楽しく教え学び合えるような生涯学習の環境づくりを推進していくこととしています。</p>

働き	「働く」政策のプライオリティが高いと考える。障害者をもっと公務員として雇用する政策があってもよい。	<p>やりがいのもてる仕事への就業機会が確保された社会をめざしていきたいと考えています。</p> <p>そのため、中期計画では、京都ジョブパークを中心に行政、労働者団体、経営者団体などが一体となって総合的な就業支援を拡充するとともに、生活保障と就労保障の一体化やワークライフバランスの実現に向けた取組を進め、障害者や高齢者、女性などだれもがライフスタイルに合った働き方ができるようにしていくこととしています。</p>
	就職支援やターンをはじめとした新しい雇用創出を入れてほしい。	
	障害者が地域の身近な人の中で雇用されていくことを期待する。	
	障害児を抱えている親や元気な高齢者が働けるようにしてほしい。	
	主婦でも働きやすい職場が増えてほしい。	
	老人が生きがいや楽しみを持って生活するための仕事があってほしい。	
	大学生をインターンシップとして社会で活躍できるようにすべき。	
	最低賃金や生活保護などのセーフティネットの上に、雇用や賃金の具体策が必要である。	
	子育てには家庭の果たす役割が重要であるが、家族団欒の時間がなければ役割を果たすことは困難であり、長時間労働の制限など労働環境の改善に力を入れてほしい。	
医療・福祉	予防医学を普及させ、科学万能主義から距離を置くなど、医療行政の抜本的な見直しに取り組むべき	<p>健康で突然の病気やけがなどでも困窮することのない社会をめざしていきたいと考えています。</p> <p>そのため、中期計画では、健康づくりを進めることをはじめ、医師バンクの充実やドクター・ヘリの運航などにより、医師不足の解消や救急医療体制の充実を図るとともに、障害のある人が地域で安心して暮らせるように、医療・福祉サービスの機能の拡充に努めていくこととしています。</p>
	高齢者の医療費が莫大なので、府立医大生が地域医療の実習を兼ねて成人病の予防講習をしてはどうか。	
	優秀な医師を京都で育成し、府民の生命の安全を確保すべく、医師不足を解消してほしい。	
	府南部地域に高度技術を兼ね備えた大きな高度救命救急センターをつくってほしい。	
府民安心の再構築	聴力障害者と会話するとき、手話という言葉があることをPRしてほしい。	<p>安心して年齢を重ね、長寿を謳歌できる社会をめざしていきたいと考えています。</p> <p>そのため、中期計画では、介護職の地位向上など介護をとりまく環境整備や、医療・介護・福祉サービスを一体的に提供する地域包括ケア体制の整備を進めるとともに、高齢者の安全を守り、孤独感を解消するための取組や、社会参加のためのしくみづくりなどにより高齢者の生きがいづくりを応援する取組を進めていくこととしています。</p>
	無駄な受診・医療を排除するための健康教育、老人保健施設を中心とした高齢者医療、終末期医療の充実により、世界がうらやむ高齢社会をつくるべきである。	
	独居老人が安心して暮らせるようにサポートがほしい。	
	訪問看護師を多数育成し、民生委員・司法書士ともチームを組み、地元と一緒に老人家庭を訪問してほしい。	
長寿	福祉施設等で働く介護職員などが生きがいを持って長く勤務できるようにしてほしい。	

長 寿	一人暮らしのお年寄りが孤独に陥らないように、定期的に訪問したり電話をするなどしてほしい。		
	核家族化で一人暮らしのお年寄りが増加しており、町ぐるみでお年寄りを守る対策が必要である。		
	元気な高齢者が生きがいを持てるように、生涯スポーツやボランティア等の充実を図ってほしい。		
	老人の生きがいづくり、健康づくり、相互の助け合いなど、元気な老人を維持するための政策を考えてほしい。		
	高齢者が楽しんで何かを学び、憩える場が近くにほしい。		
	お年寄りの交流の場と託児所を併設するといいいのではないか。		
府 民 安 心 の 再 構 築	暮 ら し	小学生の通学路で危険なところがたくさんあり、早急に改善してほしい。	<p>犯罪や事故の危険性が小さく、災害にも強い社会をめざしていきたいと考えています。</p> <p>そのため、中期計画では、安全な道路交通環境の確立や交通安全教育の推進、住宅等の耐震化の促進を図るとともに、自殺の原因に包括的に対応する体制整備などにより、自殺を予防していくこととしています。</p> <p>また、有機農業の拡大、生産者と消費者の絆づくり、地産地消・旬産旬消の促進などにより、食品の安心・安全を確保していくこととしています。</p>
		子どもたちが安心して登下校できるように願う。	
		歩行者や自転車に乗る人すべてが走行に対する認識を深め、互いに理解して安全走行に取り組むべきである。	
		警察の余分な取締りをやめ、もっと大切なことをしてほしい。	
		人が一番長く時間を過ごすのは家の中であり、住まいの安心・安全の確保という要素をもっと盛り込んでほしい。	
		気軽に相談できる受け皿づくりなど、職場、学校、地域での取組により自殺者を減らせないかと考える。	
		循環型の有機農業システムの成功モデルをつくるべき。	
		輸入野菜の安全性が問われる昨今、休耕田を無料若しくは低価格で借りられるようにすれば、自産自消につながると思う。	
輸入食品の安全性にもっと目を光らせてほしい。地産地消を進めるために、近場での旬菜市場を期待する。			
人 権	学校教育の中で身近な問題として人権問題を取り上げ、話し合うことが必要である。	一人ひとりの尊厳と人権が尊重され、だれもが自分らしく生きることのできる社会をめざしていきたいと考えています。	
	障がい者を抱える家族として、車いすですぐ安全に気軽に外出ができるまちになってほしい。	そのため、中期計画では、府民参加型の人権教育・啓発を実施していくとともに、だれもが不自由なく行き来できるユニバーサルデザインのまちづくりを進めていくこととしています。	
地 域 力 再 生	自治会等の自治組織の活性化により、自分のまちは自分たちで守り、安心して住める住み良いまちづくりや地域の活性化につながると思う。	地域の課題解決に向け、地域みんなが連携・協働する社会をめざしていきたいと考えています。	
	行政がもっと密接に地域と関わりを持ち、地域の情報を提供し、活性化してほしい。	そのため、中期計画では、自治会、NPO、大学、企業、行政等が対等の立場で結びつき地域課題の解決を図るプラットフォームによる活動などを進めていくこととしています。	

地域共生の実現		民間の結婚相談所は高額で安心できない面があり、行政による婚活サポートが必要である。	
	新たなコミュニティづくり	少しでも地域の人と人のつながりができるように、ラジオ体操等の時間をつくってはどうか。	自由で開かれた新しいタイプのコミュニティのある社会をめざしていきたいと考えています。 そのため、中期計画では、婚活も含めて、広い意味での地域社会の絆・コミュニティづくりを図るとともに、助け合いのしくみづくりによる互助・互恵の社会づくり、地域の資源を活かした取組、商店街等を舞台としたまち中の賑わいづくりなどを進めていくこととしています。
		豊かな自然の中で生きがいがある仕事ができる地域、心の健康づくりのためのふれ合いの場所、人間関係のストレスを取り除く癒しの場所が必要である。	
		高齢者や幼児のいる家庭などで、けがや急病などの緊急事態が発生した時に、近隣住民がボランティアで世話をする「地域緊急サポート」を立ち上げることが必要である。	
		空き店舗なども活用して、ふれあいの場と活気を取り戻してほしい。	
	男女共同参画	紙面上で「輝く女性」が目を引き、女性が活躍しているところを見られてよかった。	男女が対等・平等な存在として自己実現できる社会をめざしていきたいと考えています。
		子どもがいても働きたい女性はいっぱいおり、マザーズジョブカフェのピーアールをしてほしい。	そのため、中期計画では、マザーズジョブカフェを中心に、子育て相談から就職斡旋までのワンストップ支援を行っていくこととしています。
	ふるさと定住	京都府・京都市の区別なく、同じ京都人として同じ暮らし方ができるような、平等なサービスが受けられるまちづくり、地域、人づくりを望む。	だれもが生まれ育った土地に住み続けられる魅力ある社会をめざしていきたいと考えています。 そのため、中期計画では、府域全域で個性豊かで住みやすい地域づくりを進めるとともに、農山漁村の定住環境整備の一環として、有害鳥獣の捕獲強化を図っていくこととしています。
		府内のどの地域に住む人も、京都人としての等しいサービスが受けられる社会を望む。	
		高速道路無料化を推進することで、現金収入を得やすい地域に通えるようになり、過疎の問題も独居老人の問題も同時に解決できるのではないかな。	
猿の群れを捕まえてほしい。			
人づくり	地域を元気にする源は、人づくりと人発見である。	次代の京都を担う人や、世界を舞台に活躍する人づくりの京都をめざしていきたいと考えています。 そのため、中期計画では、地域に根ざして活動する優れた地域リーダーの育成などに力を入れていくこととしています。	
	京都はエコのまちでもあり、エコのアイデアをいろいろと情報発信して教えてほしい。	持続可能な人類社会のモデルとして、世界の範となる環境を実現する京都をめざしていきたいと考えています。 そのため、中期計画では、大量生産・大量消費・大量廃棄型のライフスタイルの転換を促し、省資源・省エネルギー型の自然環境と調和した暮らしを推進していくとともに、地域住民、NPO、企業等と連携・協働した取組を進め、優れたまち並みや景観、自然環境や生活環境、生物多様性のある社会を創出していくこととしています。	
	太陽光、水力、風力など自然エネルギーの利用を推進すべき		
	日本全国の風景が将来一色になるのではないかな。自然を大切にすることは生活の基本であり、忘れてはならない問題である。		
	町の美化・緑化を進めてほしい。		
環境の「みやこ」	まち全体をゴミのない清潔なまち、美しいまちに、市民・府民のマナー向上に努めてほしい。		

環境の「みやこ」

自らの文化、誇りを尊重し、文化や景観の保護を強く望む。
観光立国をめざすため、歴史的建造物は維持しつつ、新しく建設する建物は規格を制限し、法律で規制するという強い政治力を発揮してほしい。
京屋敷の解体時の木材を府や市が安く買い取り、嵐電の駅を修復するときには使用できないか。
外国のように犬といっしょに気軽にバスやスーパーに入りたい。
地域毎にドジョウの復活などのプロジェクトを立ち上げ、京都府全体を生物多様な世界につなげてほしい。

文化創造

府立植物園をテーマパーク化し、多くのお客さんに楽しんでもらえるようもっと工夫すべき。
お寺は税を優遇されているのだから、京都市民は寺社の拝観料を無料にしてほしい。
各種スポーツ設備の充実を願う。

豊かな伝統文化を継承し、新しい文化が次々と萌芽する卓越した文化力のある京都をめざしていきたいと考えています。

そのため、中期計画では、京都文化にふれる機会を増やすことなどにより、京都文化を継承し、発展させるとともに、府立植物園をはじめ府内各地の文化拠点や公園・スポーツ施設の整備などを進め、新しい文化・芸術、スポーツを振興していくこととしています。

産業革新・中小企業育成

国道沿いの排気ガスを吸収する竹炭や、太陽光を利用した街灯、路面温度を下げる陶器など新しい産業を育ててほしい。
若い人たちが様々な京都の特殊技術を継承し、中高年の働ける場所もたくさんつくり、中国・韓国に負けない国づくりをしてほしい。
伝統工芸産業の職人の高齢化と後継者不足が猶予を許さない状況にあり、公的補助を導入して手を打つべきである。
技術の習得が困難な手工芸の後継者育成のための環境の整備が必要である。
町家を活用して、若手の大工や内装職人に修理を任せ、市町村のアンテナショップとして「地域の技」の実演販売の場としてはどうか。
京都舞鶴港のコンテナ埠頭は可否を確かめてから運用してほしい。
外国人観光客が京都を訪れた際、厳かで緊張するような質の高い観光地であってほしい。
観光都市のわりに歩きたばこする人が非常に多く、市内の全面禁煙を早期に実現すべき。
外国人観光客に、武士道を知ってもらうためにチャンバラを見ることが出来る場をつくってはどうか。
観光地での駐車場を多くしてほしい。
アジアからの観光客が増えており、観光地の人々がおもてなしできるように会話力をつけるようにしたい。
もっと観光客にきてもらうために、みんなが協力して観光客に親切にすべきである。

京都経済を支える中小企業が安定した経営を行なう中で、未来を切り拓く産業のイノベーションが進展する京都をめざしていきたいと考えています。

そのため、中期計画では、環境、健康、コンテンツなど京都の特性を活かしたブランド産業を育成するとともに、未来の職人を養成する伝統工芸の高等教育機関を設立するなど、ものづくり技術の継承や人材育成を図っていくこととしています。

京都力の発揮

産業革新・中小企業育成	放置された里山の手入れをすれば雇用対策になるのではないか。	また、京都舞鶴港を有効に活用するなどして世界との産業交流を進めていくとともに、おもてなし意識の向上やアイデア・工夫などにより質の高い観光への進化を図り、京都観光の成長・発展を促していくこととしています。
	景観について、東山の立ち枯れがひどい。山の手入れをすることにより、雇用創造になる。	
	京都は歴史観光都市として、世界から人を呼び込んでいる。その基盤となるのは山々であり、ナラ枯れなどから山を救う努力をすべき。	
	温暖化のため紅葉が遅くなり、観光に打撃を与えている。木の本体が紅葉するまでの紅葉もどきの植物を開発してほしい。	
	これからの若い人達にも農業をしてみようかと思えるような取組を考えてほしい。	さらに、森林整備の集約化や機械化、京野菜、宇治茶などのブランド農林水産物の生産・販売を拡充し、若者にも魅力的となるような農林水産業の発展はもとより、環境、食育、地域の活性化に寄与させていくこととしています。
	地産地消を進めるために、もっと“京都産”をアピールしてほしい。	
	地産地消と銘打って新鮮さや安さで客を呼び込み、廃屋化した市場や商店を活性化することを期待する。	
	河川敷を府民農園として無料で開放し、作った作物を府が安く買い取ることを考えてはどうか。	
	京野菜などの特産物を京都の中で有効に活用していくことが、環境、食育、農業の活性化の観点からも大切である。	
	各種特産品を道路等で販売してはどうか。	
	京野菜の料理の仕方や販売場所がわかりやすく書いてあるチラシや看板を置いてほしい。	
	地元の新鮮な夏野菜に驚いており、こうした魅力ある野菜づくりがもっと広がってほしい。	
府内には豊かな農産物があり、もっと全国的にお土産や京料理などをPRしてほしい。		
交流・連帯	JR奈良線の早急な複線化、JR東海道新幹線ののぞみ・こだまの京都発着をお願いしたい。	府域の内外を快適に移動したり、情報をやりとりでき、世界中から人々が集い交わる京都をめざしていきたいと考えています。 そのため、中期計画では、鉄道の利便性の向上、公共交通機関の利用拡大、住民生活に不可欠な道路の整備などを進めていくこととしています。
	バスの本数や停留所の数を増やしたり、道幅をもっと広げるなど交通面が便利になることを望む。	
	市内や隣町を移動しやすいようバスの路線や本数を増やしてほしい。	
	地元はバスが少なく、地元民が困っているのでバスの本数を増やしてほしい。	
	地下鉄やバスを安くし、運賃が高いという市民の意識改善を図るべき。	
道路の建設に際して、地域の実状・環境への影響を十分検討してほしい。		
希望に輝く地域づくり	海外や日本の人が京都に移住したいと希望するにはどうしたらいいかという観点での計画が必要である。	それぞれの地域が「みやこ」となるよう、夢のある地域構想が展開する京都をめざしていきたいと考えています。 そのため、中期計画では、地域の個性や資源を最大限活かした地域構想を展開するとともに、その効果を府域全体に浸透させるため、それらを有機的に結びつける地域間交流・連携プログラムを進めていくこととしています。
	それぞれの地域の特性をうまく活かして、観光にも利用してほしい。	
	どこの場所も京都市内からは遠く感じるが、そこに引っ越したい、子育てをしたいと思えるようになれば素敵だと思う。	
京都には宇治茶などのブランド力がある農産物も多いため、人口の多い地域に各地域の魅力や特産をPR・発信してほしい。		

全体・その他	中期計画ならば、もっと具体的な提案をしてみてもどうか。	今後中期計画に具体方策を提示する予定です。
	図面だけではよくわからないので、具体的にどういったプランがあるのかを載せるべき。	
	「明日の京都」ビジョン実現のための財政改革をすべき。	財源については、すでに策定済みの「府民満足最大化プラン」に基づき、平成25年度までに新規事業財源を約100億円確保できるよう、引き続き行財政改革を徹底して進めていくこととしています。
	長期ビジョンが長期になりすぎて、達成できない悲劇にはなってほしくない。	長期ビジョンで描いた将来像の実現に向かって、中期計画のもとに着実に成果を積み上げていきたいと考えています。 そのため、中期計画では、強みや弱みをはじめ京都府社会の現状と課題を分析し、対応方向を明確にしながら、実効ある施策運営に努めていくこととしています。 また、ビジョン等の立案時だけでなく、その推進に当たっても、市町村、大学、企業、NPOなどとの広範な連携・協働を図るとともに、進捗状況については、府民の代表である府議会への報告等により、しっかりと説明責任を果たしていくこととしています。
	こうした中期計画は最初が肝心だと思うので、この4～5年の間にしっかり基盤をつくりあげてほしい。	
	客観的な京都の強み・弱みの分析を実施すべき。	
	官界・学界だけでは真のビジョンの立案・推進は不可能であり、民間企業の人材を登用すべき。	
「明日の京都」ビジョン立案後、府民の代表が進捗をチェックし、京都府は説明を負うしくみを構築し、府民にアピールすべき。		